

園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として、園芸療法活動を実施している。研修会と学生向けのグループプログラムの二種類を行いたいと思っているのだが、予算の有無と外部講師との日程調整の難しさゆえ、研修会の方は残念ながら二〇〇八年以降開催できていない。研修会はスタッフが園芸療法への知識を深める良い機会となるので、今後もしもあきらめずに開催する努力を続けたい。以下、学生向けの園芸療法活動を中心に報告する。

学生相談室では、毎週金曜日の午後に、学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループを開催しており、その中で季節に合わせて園芸療法プログラムを導入している。今年、前・後期合わせて計四回実施した。内容は、プランターでの野菜作り、サツマイモの苗植えと寄せ植え（五月）、サツマイモの収穫と試食（十一月）、クリスマスアレンジメント（十二月）である。また、プログラム以外に、春休み（二月末）にスタッフだけで入学・進学の時期に間に合うように春の草花の寄せ植えをした。相談室内やエントランスに飾られた春の花々が来室者を歓迎するかのよう四月に咲き誇り、新入生や来室

した学生に春という季節を味わい楽しんでもらうことができた。このように、生きている植物を相談室スペースに飾り、季節を視覚や臭覚など五感で味わってもらうことも園芸療法のうちだと考える。

前年に引き続き、五月にプランターでの野菜づくりと寄せ植えを二回に分けて行った。（写真①）一日目にまず、駐車場でプランターに野菜の苗を植えた。作業場所・設置場所は、学生の目に触れやすく日当たりのよい18号館入口の駐車場である。今年、オクラ、トマト、サニーレタス、きゅうり、バジル、ルッコラを植えてみた。次に、園芸療法スペース（学生相談室屋上）に移動し、サツマイモの苗を畑に植えた。（写真②）二



写真① プランターでの野菜作り (2015年5月22日)



写真② サツマイモの苗植え (2015年5月22日)

日目にピオラやパンジーなどの春の花々の寄せ植えをした。今回男子学生が多く参加しており、花を一切使わずセージと木だけのシンブルな作品や、アイビーがメインの大胆な作品が作られ、興味深かった。

今年の夏は、盛夏期こそ暑さは厳しかったが、その期間が非常に短かった。エルニーニョ現象の影響でお盆過ぎからオホーツク海高気圧の影響が強まり、八月下旬の気温は平均より大幅に低くなった。私たち人間には過ごしやすい気候であったが、植物にとってはあまりよくなかったため、前年度に比べると野菜のサイズは小さく収穫量も少なかった。そのため、今までは七月に入ると毎週ランチアワーにてサラダを提供してい



写真③ ランチアワーにて試食 (2015年7月13日)

たが、今年に残念ながら試食できる機会は一〜二回しかなかった。(写真③)ちなみに、ランチアワーとは昼休みに学生相談室のサロン室で学生とカウンセラーが昼食を持ち寄り一緒にご飯を食べる催しで、現在週二回のペースで開催している。少ないサラダを参加メンバーで慎ましく分けて味



写真④ サツマイモ畑 今年葉も茂らず... (2015年10月30日)

見をした。

サツマイモについても同様で、今年の収穫量は激減し、個々のサイズの小ぶりであった。(写真④⑤) 昨年も収穫量は少なかったのだが、昨年よりもさらに不作で非常に残念な結果となった。このように、命を扱う園芸療法は計算できない気候にも左右され、なかなか思い通りにいかない。今回はReアワーで植える作業に携わった学生やランチアワーで試食した学生たちと「残念だったね」「なんでだろうね」と語り合い、がっかりした気持ちやグルーブの中で共有をはかった。収穫した少量のサツマイモ(紅ア



写真⑤ サツマイモの収穫 今年さらには不作... (2015年10月30日)



写真⑥ クリスマス・アレンジメント 共同制作
(2015年12月11日)

大ぶりの木も用意された。昨年と同様、一人一本ずつ花を選び、順番にオアシスに刺していく。最後にはダイナミックな共同アレンジメントが二株完成した。現在18号館の入り口に飾っているのので、ぜひ見ていただきたい。(写真⑥)その後、個人で小さなアレンジメントを自由に制作した。母に

ズマ)と、スーパーで購入した鳴戸金時を追加して、スイートポテト風クッキーを作り試食した。今年のサツマイモは小ぶりだったが、中身はきれいな黄金色で大層甘みが強かった。鼻根目かもしれないが、スーパーの鳴戸金時よりおいしかったように思う。今回は、学生達が植物の成長を通じて悲喜交々を共に味わったことで、お互いの対人距離を近くしていく様子も見られ、グループとして有意義な時間を過ごすことができたと思う。最後に、十二月中旬クリスマスにちなんだアレンジメントを製作した。バラやカーネーション、ラナンキュラスなどの花に加えて、注文の際に男子学生が関わることを伝えると、花屋さんの配慮で大ぶりの黄金ヒバやサツマ杉など男性が好みそうな

プレゼントをしたという男子学生がいて、微笑ましかった。今回ほとんどの学生がアレンジメントを初めて体験し、「おもしろかった」「みんなでやると楽しい」と感想を述べていた。今年度の園芸療法プログラムでは、あらためて生きた植物を扱う難しさを実感した。天候に左右され、思うような収穫量を得られなかった。しかし、うまくいかなかった体験をグループのこととしてみんなで共有できたことは、グループとして意味のあるワークにつながったと考える。今後も自然に触れ合う機会を提供する場として、学生相談室という限られた場でできる工夫を模索しながら、園芸療法プログラムを実施していきたい。

(渡里 千賀)